資料４

標準仕様機を使用した調査について

１． 実施期間

平成 23 年 12 月 12 日～24 年 2 月 17 日

２． 調査規模

（１）標準仕様機数　40 台（4 タイプ×各 10 台）

（２）協力事業者数　社団法人日本自動車整備振興会連合会　約 50 事業場
全国自動車電装品整備商工組合連合会　約 30 事業場
日本自動車車体整備協同組合連合会　約 30 事業場
合計　約 110 事業場

※ パソコン連携のスキャンツールについては、以下のパソコンを所有する事業者とする。

【必要なパソコンの動作環境】

DOSV 互換パソコン（Windows パソコン）とし、ラップトップを推奨する。

- プロセッサ：　Pentium4　、2GHz 以上
- RAM 容量：　512M バイト以上
- ハードディスク容量：　40G バイト以上
- OS：　MS Windows　XP（32 ビット）、VISTA（32 ビット）、7（32/64 ビット）
- 言語：　日本語の OS が対象
- USB ポート：　USB2.0 以上が 2 ポート以上
- 外部ドライブ：　CD-ROM および DVD-ROM からソフトをインストールできること

３． 調査対象

国産乗用ガソリン車を対象とし、入庫車両全てに対して実施する。

４． 調査方法

限られた標準仕様機を出来るだけ多い事業場で調査するため、各事業場当たり２週間の調査を 1 クールとし、3 クール実施する。なお、年末・年始は繁忙期のため実施しない。

第 1 クール：平成 23 年 12 月 12 日 ～ 12 月 23 日
第 2 クール：平成 24 年 1 月 16 日 ～ 1 月 27 日
第 3 クール：平成 24 年 2 月 6 日 ～ 2 月 17 日

調査件数は、各事業場当たり 40～50 件程度とし、合計 5,000 件程度の調査を目指す。

５． 調査票

別紙 1 のとおり

６．調査に供する標準仕様機

日本自動車機械器具工業会の会員会社の開発した標準仕様準拠のスキャンツールを供するものとする。（パソコンは対象外です。）

（１） 標準仕様機の定義（平成 22 年度　汎用スキャンツール普及検討会）

比較的簡易な故障診断を幅広く行える基本機能をベースとし、対象システムの追加やより高度な故障診断が行えるよう、整備事業場の作業内容に合わせた拡張機能の追加ができる拡張性のある機能とする。また、パソコン等外部情報端末への接続や、12/24Ｖ電源両方に対応できるものが望まれる。

（１）基本機能

・全システムの故障状態を識別するダイアグコードの読取・消去機能を有すること。

・主要システム（パワートレイン、ＡＴ/ＣＶＴ、ＡＢＳ/ＥＳＣ、ＳＲＳエアバック）に対応した整備作業を効率的に行える補助機能を有すること。

・Ｊ－ＯＢＤⅡ（排気ガスの故障診断装置）モニタ項目の読取機能を有すること。

（２）拡張機能

・主要システムの作動状況をリアルタイムでモニタする機能を有すること。

・故障発生時に主要システムの作動状況を読み取る機能を有すること。

・主要システムを強制的に作動させ、故障発生箇所を特定するための機能を有すること。

（２）標準仕様機の開発状況（H23 年 10 月末現在、自機工調べ）

メーカ			A 社	B 社	C 社	D 社
発売状況			H23/10 月	H23/6 月	準備中	準備中
構成		基本機能（概算価格帯）	単独使用 10 万円以下	PC 連携 10 万円以下	PC 連携（未定）	単独使用（未定）
構成		拡張機能（概算価格帯）	PC 連携（未定）	PC 連携 15～20 万円	PC 連携（未定）	単独＋PC（未定）
ソフトの充足状況	基本機能	DTC 機能	○	○	△	△
ソフトの充足状況	基本機能	作業サポート（主要 4 ｼｽﾃﾑ）	□（H24/3 月）	○	△	△
ソフトの充足状況	基本機能	J‐OBDⅡ（DTC,ﾚﾃﾞｨﾈｽｺｰﾄﾞ、ｽﾄﾘｰﾑﾃﾞｰﾀﾓﾆﾀ）	△（H24/3 月）	○	△	△
ソフトの充足状況	拡張機能	ﾃﾞｰﾀﾓﾆﾀ機能（主要 4 ｼｽﾃﾑ）	△（H24 年度）	○	△	△
ソフトの充足状況	拡張機能	ﾌﾚｰｽﾞﾌﾚｰﾑﾃﾞｰﾀ（主要 4 ｼｽﾃﾑ）	△（H24 年度）	○	△	△
ソフトの充足状況	拡張機能	ｱｸﾃｨﾌﾞﾃｽﾄ（主要 4 ｼｽﾃﾑ）	△（H24 年度）	○	△	△

凡例：　◎標準仕様目標値まで開発完了（H24 年度の情報開示に向け自工会と調整中）
○現行多機能機並み（主要４ｼｽﾃﾑ）まで開発完了　□機能を拡充中　△開発中

標準仕様スキャンツールを使用した整備実態調査票（案）

調査対象の事業者名を記入

工場資格：□指定　□認証　□特認
整備要員：□～3人　□4人～　□11人～
業態：□兼業　□専業　□その他

入庫目的の番号（お客様の用命内容）
1：車検整備　2：故障修理　3. 板金修理
4：一般整備（消耗品交換、用品取付等）

入庫車両の諸元を記入

警告灯の確認

点灯していた警告灯の項目に「1」
全消灯の場合はこの欄に「1」

故障コード（DTC）の確認

DTC名欄：読取ったDTC名を記入
現在・過去区分欄：以下の番号を記入
1：現在故障のみ　2：過去故障のみ
3：仮コード　4：区別不明

標準仕様機の活用結果

以下の番号を記入
1：この機能を使用した
2：ツールが未対応
3：使用する必要なし

No.	車名	車両型式	登録年月	入庫目的を番号で記入	チャージ	エンジン	ABS	A/T	トラクション	SRSエアバッグ	EPS	ブレーキ	その他	警告灯の点灯無し	DTCが無しの場合は、「1」を記入	1個目のDTC DTC名を記入	1個目のDTC 現在・過去区分番号	2個目のDTC DTC名を記入	2個目のDTC 現在・過去区分番号	3個目のDTC DTC名を記入	3個目のDTC 現在・過去区分番号	4個目のDTC DTC名を記入	4個目のDTC 現在・過去区分番号	左欄で記入できなかったDTCの数を記入	DTCの消去	フリーズフレームデータ	データモニタ	アクティブテスト	作業サポート	未対応項目があり、他のツールを使用	使用した標準仕様機（最下位欄の番号で記入）
例1	アリスト	JZS160	H 9 年 10 月	3										1		P0135	2	P0155	2						1	1	3	3	3		1
例2	フォレスター	CBA-SH5	H 20 年 9 月	1										1		C0057	2								1	3	3	3	3		2
1			H 年 月																												
2			H 年 月																												
3			H 年 月																												
4			H 年 月																												
5			H 年 月																												
6			H 年 月																												
7			H 年 月																												
8			H 年 月																												
9			H 年 月																												
10			H 年 月																												
11			H 年 月																												
12			H 年 月																												
13			H 年 月																												
14			H 年 月																												
15			H 年 月																												
16			H 年 月																												
17			H 年 月																												
18			H 年 月																												
19			H 年 月																												
20			H 年 月																												

機種決定後、記入する

標準仕様機に対する要望	使用した標準仕様機の機種： 1：　2：　3：　4：

別紙1